

創学舎ニユース

No.240

世界が敵に

まわった日(その8)

今回は、「ソメノおばさん」の話です。私の小学校時代は、ある意味で「ソメノおばさん」の庇護のもとにあったといえる。私の祖父の妹で、小学校の近くに住んでいた。学校が終わると、毎日のおばさんの家に寄った。小高い丘の頂上にあつて、車や自転車はとも通れない細い山道を、ふうふういいながら、登っていくのだ。私は、登山歴二〇余年になるが、未だかつて、あんな山道の上にある人家はあまり見たことがない。「ふうふう、ふうふう。」毎日毎日登るのだった。

「ソメノおばさん」はいつも、私をそして弟も待っていてくれて、私がたどり着くと、満面の笑顔で迎えてくれた。明るくて、きれいで、気がきいて、いろんなことが上手で、本当に素晴らしい人だった。家に入ると必ずおやつがあつて、自分の家ではなかなか食べられないようなものも多いので、もうぱくぱく、むしゃむしゃ食べたものだ。紅茶を初めて飲んだのもこの家、サイダーもこの家、ショートケーキもこの

家、バナナもこの家だったかな。

お腹がふけると、次はテレビの時間。私の家は貧しくて、テレビがなかった。だから、おばさんの家でテレビを見るのは本当に楽しみだった。でも見るのはいつも相撲。おばさんと、いろいろ言い合いをしながら相撲を見る時間は、まさに至福であつた。おばさんの夫である「時雄おじさん」もいい人で、彼にも本当に大切にしてもらつた。

勿論、実の子供も孫もいて、近くに住んでいるのだが、私たち兄弟は、他の誰よりも、あの家に通つたのだった。学校で「いやなこと」があつた日はグチを聞いてもらい、「いいこと」があつたら一緒に喜んでもらい、元気がないときは励ましてもらい、本当に何ということか、実の孫でもない私たちに信じられない程の愛情を注いでくれた。(以下次号) (小林)

教育「名言」の紹介(14)

われわれに何かを習得させるすべてのものがシーニユ(記号、しるし)を発し、習得の行為はすべて、シーニユまたは象形文字の解釈である。

《出典》ジル・ドゥルーズ(フランス・一九二五
九五)プルーストとシーニユ 文学機械としての「失われた時を求めて」()

解説 現代フランス哲学の隆盛を支えていた思想家の一人、ドゥルーズが、一九九五年に自

ら死を選んだことは記憶に新しい。ベルグソン、

スピノザ、ニーチェ、ライプニッツ、カントらの思想研究を通して独特の唯物論的な記号論を展開させたドゥルーズは、習い学ぶという意味の習得を、シーニユ(記号、しるし)の問題としてとらえていた。習得とは「物質、対象、存在に対して、それらがあたかも、解読されるべき、解釈されるべきもろもろの記号を放っているかのごとく見なすこと」であると云つ。人は、木材の記号に感性的になることによつてのみ木職人になる。また病気の記号に感性的になることによつてのみ医者になると彼は言つ。あたたかもエジプト学者が象形文字を解釈していくような、その過程は、対象と「友」になることだとも彼は述べている。感性的記号を識別する実践ともいふべき習得の過程について述べたこの言葉、すなわち「私が自分の力で作品を作つたというより、むしろ、何か大きな力が私を借りて、それを作らせたような気がします」といった言葉を連想させる。自分に語りかけるその何かの力を感知できること、それが実は人間の学習の本質なのかもしれない。(アガトス教育研究所)

興味しだいで...

現在中学三年生は塾の理科の授業で天体を学習している。(もしかしたら終了してしまつたかもしれない。)私が教えながら感じたことを述

べていきたいと思う。

まず、この東葛地区は明るすぎて空(星)が見えない!!そのせいか生徒たちはほとんど空を見ていないような気がする。塾から帰る時間帯であれば、十分星や月も出ているだろうが、よっぽど意識的に見ようとしないと見えない。このような環境では、なかなか空や星に興味を持つこともできないであろう。そもそも太陽はの空から上つて、の空を通り、の空に沈むということも感覚として持っていない場合も多い。()には北・南・東・西のいずれかが入ります。()

自然現象に興味がない!!空や星に興味がないのか、それとも自然現象一般に興味がないのか。とにかく触れ合う機会が少ない分だけ、興味も薄れているという感じである。どうせ学習するのであれば、興味を持って取り組んでほしいと思う。また、天体の場合まったく興味の無い生徒にいかに分かりやすく教えていくか、悩むどころである。因みに、クラスに数人はプラネタリウムに行ったことのない生徒もいる。中三の二学期になってから、学習を始めてから行くのは時間的にも大変であるので、これを読んでいる方は是非一度足を運んでいただきたい。(柏市や松戸市にも大きくはありませんが、理科で学習する内容は、身近な現象に係る

る内容ばかりである。そういう意味では一番興味を引きやすいはずなのだが、嫌いだ・面白くないという人も多い。テストのために勉強する。点数を取りたいから勉強する。それももちろん大切であるが、どうせ勉強するなら、楽しく勉強したいものである。普段から身の回りの現象に少し意識を傾けてみよう。まだまだ不思議なことは多いはずである。(松永)

トーチライイト(2)

「人間が真にものを考えるようになるのも、自己にめざめるのも、苦悩を通してはじめて真剣に行われる」という神谷美恵子の言葉がある。

高校に入学して顔を笑われ始めた私は、めまいにも似た戸惑いを覚えた。なぜ、このようなことをされなければならぬのだ。なぜ、中学校では経験しなかったことが、いきなり始まったのだ。これらの問いを頭の中で何度も繰り返した。

私は気にしすぎているのだと思う。とらわれていた、と言っても過言ではない。でも、頭の中で声が聞こえる。顔を笑われて嫌な思いをしない人間などいないのではないだろうか。異性に対する興味が膨らむ時に、まさにその異性によってからかわれることに苦しみ覚え、悩むことは当然のことではないだろうか。これでもまだ気にしている度合いが少ないのではない

のだろうか。

とにかく普通の高校生活を送りたかった。強いストレスに締め付けられ、ずっと続くのではないかという不安を感じ、他人の反応に怯える生活ではなくて。

一方で、海外に行きたいと、ずっと思っていた。日本を出さずれば、顔のせいで笑われることはなくなるのではないかと考えていたから。本気ではなかったけれど、整形手術も、時に、頭をよぎった。

なぜ、精神がまさに発達しようとしている年齢の時に、経験しなければいけなかったのだ。好奇心が旺盛になり、感受性が強くなる時に。同じ体験でも時期が違えば、苦しみや影響の度合いは変わったのではないか。人生が左右されるほどの経験にはならなかったのではないかと悔しくて仕方がない。

しかし、認めなければいけない。これが、私の人生なのだ。と。事柄が起こることは選べなかったけれど、上記のように考え、悩むことは私が選んできたことだから。肯定も否定も単純にはできないけれど、今の私があるのは、このことがあったからだ。より良く生きようという思いは、良く生きられなかったことに対する反省から、芽生えたものであり、必死で英語とフランス語を勉強したことは、とらわれの身となっている自己を開放する試みにほかならなかつ

た。これらの事柄や、思春期に理由は異なれど外見をからかわれて悩む私への母の心配そうな視線との出会いも、痛みを味わったからこそ起こったのだろう。矛盾や葛藤と向き合い、様々な出会いに支えられながら、私は、少し、大人になった。精神の均衡が崩れそうになっている私を励まし、自殺をしよとする前にここに電話をしなさい、と言って、番号を書いた紙を差し出してくれた教授の姿を、私は忘れない。私の経験は数多くある事例の一つにすぎないけれど苦悩と共に、苦悩と寄り添いながら生きようとする過程において、人は成長できると思う。そしてまさにこのことこそ、生きることの可能性が、あるのではないだろうか。(武内)

過去問の重要性

過去問を解く第一の目的は、出題の形式と傾向をつかむことです。出題が記述式なのか選択式なのかによっても勉強のやり方は違ってくるのです。それぞれに対応できるように訓練をやっておかなければ合格点は望めません。例えば、大学受験の数学においては、センター試験のような誘導型のマーク式、私大で見られるマーク式、それと記述式の三つの場合が考えられます。時間制限のある入試では、これらへの対応は当然変わってきます。学術的な言葉を用いるならば、マーク式の出題に対しては、必要条件で突

つ走ればよいのです。一般的な証明など一切必要ありません。図形問題ならば、特殊図形で処理すれば簡単に解ける問題も数多くあります。これなどは、出題形式の違いによる極端な例ですが、出題形式と傾向を知らずに受験するなどというのは論外です。

第二の目的は、過去問を解くことによって現在の自分の学力と合格ラインとの差を確かめ、残り期間でその差を埋めていく作業を集中的にやることです。自分の受験校の出題に合わせて弱点・盲点を確実に補強していくのです。したがって、ただ漠然と過去問を解くだけでは意味がありません。知らなかった知識を身に付ける解けなかった問題の解法を習得していくことが必要です。過去問で弱点・盲点が発見されたならば、これまで自分が解いてきた問題集等での部分は集中的に復習をするべきです。ここまでの作業をして初めて過去問を解く価値が生まれてきます。つまり、解いたあとの作業に時間をかけなければならぬということです。受験において過去問に勝る参考書はないということをお肝に銘じましょう。(村上)

卒業や転校等で創学舎を離れる方にも、ご希望があれば、創学舎ニュースを無料でお送り致します。在籍した教室までご連絡下さい。